

# 第10回全国高等学校情報教育研究会 全国大会(東京大会)の報告

## 1. はじめに

8月9日(水)、10日(木)の2日間、国立大学法人電気通信大学(東京都調布市)を会場にして、第10回全国高等学校情報教育研究会<sup>1)</sup>全国大会(東京大会)が、東京都教育委員会・東京都高等学校情報教育研究会の共催のもと開催された。文部科学省をはじめとして、多数の後援と協賛を受け、教員、大学、企業関係者等約400名が参加し、10回目を迎える記念すべき大会となった。

## 2. 大会概要

【テーマ】「情報教育に関わるすべての人へ」

【日時】8月9日(水)10:00～10日(木)16:30

【会場】国立大学法人電気通信大学(東京都調布市)

【主催】全国高等学校情報教育研究会

【共催】東京都教育委員会

東京都高等学校情報教育研究会

【後援】文部科学省、国立大学法人電気通信大学 他

【大会 URL】<http://www.zenkojoken.jp/10tokyo/>

【プログラム】

○8月9日(水)

9:00～ 受付

10:00～ 全国高等学校情報教育研究会総会

10:20～ 開会行事(開会挨拶、来賓祝辞)

10:40～ ライトニングトーク

11:20～ 基調講演

大阪大学大学院 情報科学研究科

特任教授 萩原 兼一 氏

13:30～ 分科会、企業展示

17:15～ 教育懇談会



図1 開会行事とライトニングトークの様子

○8月10日(木)

8:30～ 受付

9:00～ 分科会、ポスターセッション

13:30～ パネルディスカッション

テーマ: 来るべき情報入試を考える

パネリスト: 萩原兼一 氏(大阪大学), 神藤健

朗 氏(東京都市大学付属中学校・高等学校),

三井栄慶 氏(神奈川県立横浜翠嵐高等学校),

加藤光 氏(大阪府立岬高等学校)

コーディネータ: 小原格 氏(東京都立町田高等学校)

14:30～ 文部科学省講演

文部科学省 生涯学習政策局 情報教育課

情報教育振興室長

文部科学省 初等中等教育局 視学官 安彦 広斉 氏

15:30～ 講評・講演

文部科学省 生涯学習政策局 情報教育課

情報教育振興室 教科調査官

国立教育政策研究所 教育課程研究センター

研究開発部 教育課程調査官 鹿野 利春 氏

16:00～ 閉会行事

## 3. 大会の様子

(0) 大会冊子

まず触れておきたいのは、約1cmもの厚さがある今大会の資料についてである。第10回の「記念冊子」として作成された冊子は2部構成で、第1部が東京大会編、第2部が記念大会資料編となっている。これまでの第1回～第9回までの概要が掲載され、大会実行委員会の熱意が感じられる仕上がりだった。

(1) ライトニングトーク

開会行事の後、1人50秒で約30名の分科会発表者が発表した。今年は昨年より時間が短くなったが、画面スイッチャーを使って、次の話者が機器を接続しておき、銅鑼が鳴ったらスイッチを切り替えて登壇するよう工夫され、おおむね順調に進められた。短い時間の中、それぞれが工夫して発表していた。

(2) 基調講演

大阪大学の萩原兼一特任教授から、「情報学的アプローチによる『情報科』大学入学者選抜における評

価値手法の研究開発」という演題で、大阪大学・東京大学・情報処理学会が委託されている研究開発の概要についての講演があった。大学入学選抜で、学力の3要素を多面的・総合的に評価するために、事業で取り組んでいる3つの柱についてそれぞれ説明された。第1の柱は、「情報科」の試験問題を「知識・技能」だけでなく「思考力・判断力・表現力」を評価するものにする。第2の柱は、試験を実施するCBT(Computer Based Testing)システムを試作すること。第3の柱は、CBTでないと出題できない問題を考えること、である。そのために、思考力・判断力・表現力について定義することから始め、それらを評価するためのルーブリックの検討状況や、CBTのプロトタイプの進捗状況などについてお話しされた。

### (3) 分科会

2日間に分けられ、各日とも4会場でそれぞれ4件ずつ、1件につき発表20分、質疑応答5分で行われた。32件の発表のうち、プログラミングに関する発表が13件あり、問題解決や統計に関連するものなど、次期学習指導要領を見据えての発表が多いように感じた。数年前は情報モラルに関する発表が多かったことを考えると、だいぶ発表内容が変化している。大学関係者からの発表も2件あり、大学の研究成果を聞くことができる貴重な機会にもなった。



図2 基調講演と分科会の様子

### (4) 企業展示

1日目の午後、分科会と同じ建物の1階で行われた。教科書会社やソフトウェア関係の他、プログラミングやIoT関連の展示が目についた。東京開催ということもあってか、今年初めて見る企業もあった。

### (5) ポスターセッション

32件の発表のうち、23件が大学関係者等からの



図3 企業展示とポスターセッションの様子

発表であった(10件は会場である電気通信大学の研究室等の発表を含む)。高校での実践発表が少なかったのは少々残念であったが、大学関係の発表が多かったことで勉強になることもあった。

### (6) パネルディスカッション

ご講演された大阪大学の萩原特任教授の他、高校教諭3名をパネリストとして、「来るべき情報入試を考える」と題したパネルディスカッションが行われた。パネルでは、それぞれの高校での取り組みの発表の他、フロアからの質疑なども活発に行われた。



図4 パネルディスカッションの様子

### (7) 文部科学省講演、講評・講演

文部科学省の安彦広斉視学官から、「次期学習指導要領の改善の方向性について～情報教育に期待されていること～」という演題で、今回の改訂の背景や、これからの教育課程の理念、学習指導要領の改訂のポイントなどについて講演があった。

また、文部科学省の鹿野利春教科調査官から、第10回大会までの過去の大会を振り返っての話の後、これからの情報科の授業の姿や教員に求められる力などについての話があった。次期学習指導要領に向けての準備を進めるとともに、現行学習指導要領における授業改善について、熱く語られた。



図5 講演・講評の様子

## 4. おわりに

今回の第11回大会は、平成30年8月9日(木)、10日(金)に、秋田公立美術大学(秋田県秋田市)で開催される。秋田には情報の専門学科設置校も1校ある。東北の地での来年の大会が楽しみである。

### 参考文献

1)「全国高等学校情報教育研究会」, <http://www.zenkojoken.jp/>